

平成30年度

# 東京都美術館年報

Tokyo  
Metropolitan  
Art Museum  
Annual Report  
2018



TOKYO METROPOLITAN ART MUSEUM

【企画展】

# BENTO

## おべんとう展—食べる・集う・つながるデザイン

BENTO—Design for Eating, Gathering and Communicating

主催／公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都美術館

後援／オランダ王国大使館

協賛／奈良県、奈良県木材協同組合連合会、株式会社エヌ・シー・エヌ

協力／株式会社木楽舎『月刊ソトコト』

会期／2018年7月21日(土)～10月8日(月・祝)

会場／ギャラリーA・B・C

会場構成デザイン／フジワラテッペイアーキテツラボ  
グラフィックデザイン／BAUM LTD.

出品点数／96点

出品作家／阿部了、大塩あゆ美、平野太呂、小倉ヒラク、  
北澤潤、小山田徹、マライエ・フォーゲルサン  
グ、森内康博、ワークショップ作家／山本千織

観覧料(当日)／一般 800円、大学生・専門学校生 400円、  
65歳以上 500円

担当／熊谷香寿美、稲庭彩和子、河野佑美、大橋菜都子

日本独自の食文化である「お弁当」と食べることにまつわるコミュニケーション・デザインについて、現代作家の作品や資料を通して見つめなおす参加体験型の展覧会を実施した。展覧会は3章構成とし、1章で資料展示等を通じてお弁当を介したコミュニケーションを紹介、2章ではお弁当を起点とするコミュニケーションを新しい視点から捉えた実験的な参加型作品を展示。3章で子供を軸に日常の関わりの中にあるお弁当を介した新たなコミュニケーション回路を作った作品を展示し、来場者1人1人のこれからの食や人との関わりを考えるきっかけとした。会場には「フロシキー」と名づけた展覧会ファシリテータが常駐し、来場者の鑑賞体験を深める役割を担った。2冊組の図録を制作。展示コンセプトをまとめた「いただきます編」を7月の開幕にあわせて発行、12月には展示風景や参加体験型作品の会期を通じた変化の記録等をまとめた「ごちそうさま編」を発行した。東京大学比較文学会 CatalTo 2018 受賞。

図録：[A5判／(2冊組※スリーブ付き)]

いただきます編／178ページ／7月発行

・「おべんとうのコミュニケーション・デザインの可能性」

熊谷香寿美(東京都美術館 学芸員) pp.10-19

ごちそうさま編／132ページ／12月発行

・「BENTO おべんとう展をふりかえって」

熊谷香寿美 pp.6-11

・「箱と箱と、もうひとつの箱—おすそわけ横丁が生み出した現場」

北澤潤(美術家) pp.82-83

・鼎談 小倉ヒラク(発酵デザイナー)×伊藤亜紗(美学者)×稲庭彩和子

pp.113-119



ポスター



チラシ



図録



会場風景 撮影：平野太呂

## 実績

入場者数／66,146人(1日平均918人)

### 関連企画

・出品作家によるワークショップ

- ①chioben-山本千織さんのワークショップ「詰め考」7月27日(金)17:00～19:00 アートスタディールーム／参加者26人
- ②ダンスワークショップ小倉ヒラクさん×flep funcle!「歌って踊るおべんとう！」7月29日(日)9:45～10:45、11:00～12:00 アートスタディールーム／参加者計41人
- ③阿部了さん・阿部直美さんとクラフト・エヴィング商会によるトークセッション「はじまりはモノクロだった」8月10日(金)18:00～19:30 アートスタディールーム／参加者33人
- ④北澤潤さんによる「おすそわけ横丁ガイドツアー&座談会」9月7日(金)、9月21日(金)、10月5日(金)各日18:00～19:00 ギャラリーC／参加者39人(9月7日)、27人(9月21日)、41人(10月5日)
- ⑤北澤潤さんによる「おすそわけピクニック」9月9日(日)、9月23日(日)、10月7日(日)各日13:00～15:00 ギャラリーC／参加者53人(9月9日)、87人(9月23日)、101人(10月7日)
- ⑥小山田徹さんによるトークセッション「お父ちゃんと娘(9歳)のおしゃべりセッション」9月16日(日)17:45～18:45 ギャラリーC／参加者29人
- ⑦森内康博さんと小野康男教授によるトークセッション「『贈りもの』としての映像メディア」9月24日(月・休)15:00～16:30 アートスタディールーム／参加者23人

・キッズデー

8月20日(月)9:30～16:00 ギャラリーA・B・C／参加者1,029人

・協力事業

8月12日(日)スタジオ／参加者計63人

奈良県×BENTO おべんとう展 木のまち吉野マイ箸づくりワークショップ(主催：奈良県、奈良県木材共同組合連合会)

・展覧会関連コンサート

8月2日(木)11:00開演(12:00終演) 東京文化会館／入場者数319人

### 掲載記事など

- ・「BENTO おべんとう展—食べる・集う・つながるデザイン—ここまでできた！日本発”お弁当コミュニケーション”。」松本あかね／『anan』No.2110 2018年7月11日
- ・「お弁当箱から見える『食』と『人』」森本未紀／『朝日新聞』2018年7月31日(夕刊)
- ・「お弁当をテーマに現代アートを展示」／『読売新聞』2018年9月7日
- ・「家族お弁当 娘が絵を描き父が作って息子が食べる」／『読売KODOMO新聞』2018年8月30日
- ・「天声人語」／『朝日新聞』2018年9月13日
- ・「お弁当という名のコミュニケーション・デザイン—「BENTO おべんとう展」」深沢慶太／『墨』254号／芸術新聞社 2018年10月1日
- ・「『お弁当』の中へ、精霊といっしょに入ってみる。マライエ・ファージェルサング」／『ソトコト』No.232／木楽舎 2019年10号

# 3

## アート・コミュニケーション事業

人と作品、人と人、人と場所とをつなぎ、アートを媒介とした新たなコミュニケーションを育む活動を展開。美術館に集まる多種多様な人々とのコミュニケーションを大切に、そこから創出される新しい価値観を社会に届けることで、アートを介したコミュニティを育んでいくことを目的としている。

とびらプロジェクト

Museum Start あいうえの

障害のある方のための特別鑑賞会

建築ツアー

学校連携

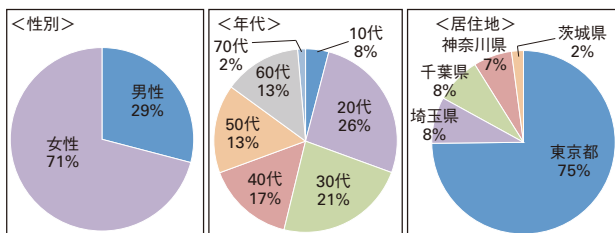
展覧会関連プログラム

キッズデー

事業の発信・成果の発表・その他







5～7期とびラーの基本属性 ※2018(平成30)年4月時点

### 基礎講座・実践講座をはじめとする学びと実践の場

とびラーは当館のミッションや藝大からのメッセージをもとにとびらプロジェクトの目指す方向性を共有し、1年目とびラー全員必修の「基礎講座」でとびラーとしての基本的なコミュニケーションのあり方を学ぶ。その後、より実践的な活動場面を想定した選択制の「実践講座」で活動への理解を深める。

#### ・基礎講座(4～6月の隔週土曜日/全6回/各回4時間)

アートを紹介してコミュニティを作るための基礎を学ぶ。対話やクリエイティブなコミュニケーションが起こる場づくりとは?美術館での鑑賞体験とは?といった問いをテーマに、とびラーの活動を支える基礎的な考え方をワークショップ形式で学ぶ。コミュニケーションの最も重要な要素として、高い発信力ではなく相手の話を解像度高く「きく」ことができる受信力を身につけることを目的としている。

#### 第1回 オリエンテーション(全とびラー対象)

講師/伊藤達矢、稲庭彩和子

プロジェクト概要や情報共有ツールについて改めて紹介し、これから活動していく上で必要となるとびラー同士の共通認識をコミュニケーションの中でつくる。

#### 第2回 「きく力」を身につける

講師/西村佳哲

コミュニケーションの基本とする、話をしている相手の全体性に関心を向けて「きく」こと、「きく力」について、体験を通じて学ぶ。

#### 第3回 ミュージアムの特性を生かしたプログラムづくり

講師/日比野克彦、森司

上野公園に集積している様々な特性を持ったミュージアムに実際に足を運び、チームでプログラムのアイデアを練ることを通して、ミュージアムの特性を活かしたプログラムづくりについての体験を深める。

#### 第4回 作品を鑑賞するとは

講師/稲庭、河野佑美

作品が存在することによって起こる体験にどのよ

うな意義があるのか、作品を鑑賞することの意味について考え、理解を深める。

#### 第5回 この指とまれ/そこにいる人が全て式/解散設定 講師/西村

小さなチームのつくり方や、そこに集まった人たち全員の力を活かした活動のつくり方について学ぶことで、とびラーが自主的に活動していくための手法を体験する。また、活動のはじめ方だけではなく、終わり方のデザインについても理解を深める。

#### 第6回 会議が変われば社会が変わる

講師/青木将幸(青木将幸ファシリテーター事務所代表)

ひとりひとりが主体的に関わるミーティングの場をつくるための具体的な手法を学ぶことで、とびラーの自主的な活動にとって非常に重要なとびラー同士が直接コミュニケーションをとるミーティングの場のあり方を考える。



基礎講座(第4回)

#### ・実践講座(6月以降各講座ごとに適宜実施)

実践的な場面を想定して設けられた3種類の講座。各講座は外部の専門家や学芸員が担当。実際の現場で気付いた疑問なども振り返りながら、アート・コミュニケータとしての学びをより深める。

A 鑑賞実践講座(対話を通じた作品鑑賞のファシリテーションを学ぶ)全9回 講師/三ツ木紀英(NPO法人芸術資源開発機構 ARDA代表理事)、稲庭、河野、鈴木智香子(藝大美術学部特任助手)

B アクセス実践講座(障害を持つ方々を含め誰にとってもアクセシビリティの良い美術館について考える)全8回 講師/小澤いぶき(NPO法人PIECES代表理事)、岩井成昭(秋田公立美術大学美術学部長、イミグレーション・ミュージアム・東京主宰)、熊谷晋一郎(東

京大先端科学技術研究センター准教授)、廣川麻子(NPO法人シアター・アクセシビリティ・ネットワーク理事長)、館野泰一(立教大学経営学部助教)、林容子(一般社団法人アーツアライブ代表理事)伊藤、稲庭、越川

- C 建築実践講座(建築物としての美術館の魅力を伝える)全8回 講師/伊藤香織(東京理科大学教授)、松隈章(株式会社竹中工務店・一般社団法人聴竹居倶楽部代表理事)、橋本功(前川建築設計事務所所長)、大谷、河野  
講座内ワークショップ:講師/んまつーポス(コンテンポラリーダンスカンパニー)館内の魅力ある場所を舞台にダンスをつくりミュージックビデオを作成。

上記講座に加えて、とびラー全員が集合する「とびラステーション」を年に1回開催し、とびらプロジェクトの全体像や今後の方向性を確認しあう機会としている。また、「福祉×アート」を考える藝大の履修証明制度Diversity on the Arts Project(通称:DOOR)とも連携し、聴講の機会も開かれている。特別展・企画展・連携展については、展覧会担当学芸員による事前勉強会と開幕後のスタッフ鑑賞研修会の場が設けられている。

本年度は、専門家とともに行う野外彫刻洗浄や、アクセシビリティ向上のためのワークショップ(コーディネーター/ブリティッシュカウンシル、講師/英国の芸術団体シェイプ・アーツ)への参加を呼びかけた。さらに、とびラー自身がとびらプロジェクトを言語化し他者に発信する機会として「とびらアンバサダー」を実施。身近にいる人や美術館に来づらい状況にある人を招待し、とびらプロジェクトの意義を説明するとともに、展示室をはじめとする館内を案内した。

#### オープン・レクチャー

オープン・レクチャーとは、とびラーに加えて一般の方々を対象に毎年行われている公開講座である。ゲスト講師を招き、とびらプロジェクトの活動を進める中で見出された問題意識や目指す社会の姿について知見を深めることを目的とし、アートを介したコミュニティの価値に関して広く一般に発信する機会としている。

2018(平成30)年度は、vol.9を7月に開催した。タイトルを「食べる・集う・つながるデザイン—おべんとう展から考えるコミュニケーション」とし、「BENTO おべんとう展—食べる・集う・つながるデザイン」(詳細はpp.22-23)出品作家であり、コミュニティや人と人のつながりに関心を抱いてきた2人の現代アーティスト(マライエ・フォーゲルサンク、北澤潤)をレクチャーとした。本展出品作品を軸に、人と人のつながりをつくりだす作品制作の舞台裏が語られた。



とびらプロジェクト・オープンレクチャー vol.9 北澤潤(美術家)

#### とびらプロジェクトの広がり

とびらプロジェクトから始まった「アート・コミュニケータ」の活動とそのアイデアは、他の地域への広がりを見せている。とびらプロジェクトでは、年間を通じて全国の自治体や美術館・博物館から活動への視察を多く受け入れており、稲庭や伊藤が各地に講師として招かれる機会も多い。そうした動きが具体的に実を結びつつある。例えば、札幌文化芸術交流センター SCARTSでは2018(平成30)年度からアート・コミュニケータの活動をスタートさせ、岐阜県美術館では2019(令和元)年からその取組を始める予定である。

#### とびらプロジェクトフォーラム

とびらプロジェクトの活動とその意義を広く周知させることを目的として、毎年とびらプロジェクトフォーラムを開催している。次年度のとびラー募集のための説明会という趣旨も兼ねている。本年度は、上記のようなとびらプロジェクトが各地に広がりつつある状況を踏まえ、「2020年のその先へ。ミュージアムが挑むダイバーシティ〜札幌・東京・岐阜をつなぐアート・コミュニティ」をテーマとした。第1部は講堂において、「『アート・コミュニケータへの期待』札幌・東京・岐阜をつなぐアート・コミュニティ」というテーマでトークセッションを行った。樋泉綾子氏(札幌文化芸術交流センター SCARTSキュレーター)、鳥羽都子氏(岐阜県美術館学芸員)、稲庭が登壇、コメンテータに西村氏を迎え、進行を大谷が担当し、アート・コミュニケータとして市民が文化施設に関わる意義や期待について、3館の事例とともに語られた。続くパネルディスカッションでは「2020年のその先へ。ミュージアムが挑むダイバーシティ」をテーマに「とびらプロジェクト」に設立から関わっているメンバー(日比野・西村・森・伊藤・稲庭)が登壇した。間近に迫る東京オリンピック・パラリンピックの後にこそ問われる多様性ある社会の実現に向けた文化施設と市民との協働について、その重要性がそれぞれの立場から語られた。

第2部はとびラーの活動拠点であるアートスタディールームを会場に「オープンスペース・カフェ」を開催し「とびらプロジェクト」の活動拠点を公開。参加者同士がフランクに対話できるカフェや、普段の活動を知ってもらうための資料を用意し、とびラーが来場者の率直な疑問にも対応した。



とびらプロジェクトフォーラム 撮影：藤島亮

## とびラボ

「とびラボ」はとびラー同士が自発的に開催する学び合いの場であり、新しいプロジェクトの検討と発信が行われる場所である。「とびラボ」は、ある1人のとびラーのアイデアに共感した他のとびラーが集まり3人以上のチームを作るところから始まる。集まったメンバーのできることを組み合わせ、興味・関心・得意分野を大切に、お互いに「ききあい」、学芸員や大学教員とも相談しながらアイデアを実現させていく。予めデザインしておいた終わり方に従ってチームが解散した後は、また新しいメンバーが集まり新しい「とびラボ」が生み出される。とびらプロジェクトでは、このステップを「この指とまれ式」、「そこにいる人が全て式」、「解散！また結成」と呼んでいる。この活動を経て、オリジナルの活動が生まれ、アートを介したコミュニケーションの可能性が大きく広がっている。同時に「とびラボ」は様々なバックグラウンドを持つとびラー同士のゆるやかなコミュニケーションの場でもあり、対話から生まれる充実した時間が美術館に新しい価値を注ぎ込んでいる。年間開催数263回。のべ参加者数1,882人。

「とびラボ」から生まれた活動

◎展覧会に関連した一般来館者対象の活動：

特別展

「プーシキン美術館展——旅するフランス風景画」

・マインドマップで味わうアート・ヨリミチビジュツカン  
プーシキン展編

「没後50年 藤田嗣治展」

・あなたのフジタをフレーミング

「ムンク展—共鳴する魂の叫び」

・ムンクの絵に耳をすます1週間

「奇想の系譜展 江戸絵画ミラクルワールド」

・マインドマップで読み解く「奇想の系譜」

公募展活性化事業

上野アーティストプロジェクト2018「見る、知る、感じる——現代の書」

・赤ちゃんとお出かけびじゅつかん・はなしてみま書！

・オリジナル缶バッジを作ろう！

学校教育展

「JOSHIBISION 2018 女子美術大学 大学院・大学・短期大学部 学生選抜作品展」・女子美さんぽ

◎都美事業や藝大事業に関連した一般来館者対象の活動：

「TURN フェス4（詳細はp.33）」・TURNさんぽ

「東京藝術大学 藝祭2018」

・みんなの藝祭スケッチ・藝祭さんぽ

「第67回東京藝術大学卒業・修了作品展」

・卒展さんぽ・なりきりアーティスト・藝大建築ツアー

◎とびラー対象の活動：

藝祭神輿レポート(とびらプロジェクトウェブサイト掲載のブログ記事)、キクミル会、野外彫刻を愛でる会、こころのタイムスリップ、カフェふらっとBee、<食×アート>を考える会、アート&鉄道、ハマスホイを深めるラボ、開扉プロジェクト

※個々の活動の詳細については、事業実績ページ(pp.55-58)及びとびらプロジェクトウェブサイトのブログページを参照のこと。<https://tobira-project.info/blog/>



とびラボ「野外彫刻を愛でる会」

## 情報共有の仕組

基礎講座や実践講座に関する情報伝達、とびラボやそこから生まれた活動の周知など、100人を超えるとびラーの情報共有を支える仕組みとして、プロジェクトを開始した

2012(平成24)年度よりメーリングリストと用途に合わせたウェブ上の6つの掲示板を整備している。ただし、とびらプロジェクトの活動は直接会って話をするを前提としているため、これらの仕組みはあくまで補助ツールとして運用している。また、情報共有ツールであると同時に次世代とびラーへのアーカイブとしての機能も果たしている。

### これからゼミと開扉会

「これからゼミ」とは、とびらプロジェクトでの任期満了後の活動を考え、その準備を進めるためのゼミである。3年目のとびラーを1名以上含むチームを結成し活動を進める。内容によっては、スタッフとの情報共有の上、館外で活動を行うことも可能である。本年度は既に開扉したとびラーと連携する活動も見られた。

ミーティング開催数 20回、のべ参加者数162人。「これからゼミ」から生まれた活動は下記の通りである。

- ・ 藝祭「おく？」ワークショップ編  
藝大生のチームと協働し、藝祭出品作品を参加型作品にするパフォーマンスを行った。
- ・ 同窓会ツアー  
あるとびラーの母校の同窓生やその家族を対象とした展覧会鑑賞プログラム
- ・ たんけん!美術館  
里親制度の周知活動を行っている団体(任意団体チャレンジ中野！ Grow Happy Family and Community)と連携し、制度を取り巻く状況を学び、実践として里親家族を美術館に招待するプログラムを実施した。
- ・ トビタテとびラー  
開扉したアート・コミュニケーターの協力を得て、都美の外で具体的にプロジェクトを立ち上げるイメージを作り上げるためのリサーチプロジェクト。(協力：日比谷図書文化館)

また、運営チームが企画したプログラムとして、「これからゼミ」説明会に加えて3期とびラー(上神田健太氏)を講師に招き、開扉後に福島県国見町で行っている町おこし事業の事業理念や構想について発表してもらった。とびラーと開扉とびラーを対象とした。

上記のような活動を経て、2019(平成31)年3月には3年の任期を満了したとびラーのための「開扉会(かいびかい)」を開催した。本年度任期満了した5期とびラー 39人。



これからゼミ 藝祭「おく？」ワークショップ編

### アート・コミュニケーターの活躍

昨年同様、財団連携事業である「TURNフェス4」(詳細はp.33)において、訪れた人がその人らしく過ごすことのできる場づくりを担う「TURNサポーター」として、とびラーと開扉後のアート・コミュニケーターのべ30人が活躍した。また、企画展「BENTO おべんとう展—食べる・集う・つながるデザイン」(詳細はpp.22-23)においても、展覧会ファシリテーター「フロシキー」として、多くのとびラーとアート・コミュニケーターが参加した。開幕前の事前研修や会場研修を経て、のべ527人が参加。来場者の会場での作品との出会いや体験をよりよいものにする活動を行った。登録者135人の半数がとびラーと任期満了後のアート・コミュニケーターであり、残り半数の今回初めてAC事業に関わった一般の方々との実践を通じた学び合いが行われていた。なお、ファシリテーター運営は一般社団法人アプリシエイトアプローチが担ったが、中心メンバーは任期満了後のアート・コミュニケーターであり、今までに蓄積された経験が多くの「フロシキー」に共有された。



展覧会ファシリテーター「フロシキー」

# Museum Start あいうえの

「Museum Start あいうえの」(以下、「あいうえの」)とは、上野公園に集まる9つの文化施設が連携し、子供たちのミュージアム・デビューを応援するラーニング・デザイン・プロジェクトである。小学校1年生～高校3年生までの全ての子供たちを対象とし、複数の文化施設が持つ豊富な文化資源の観察・鑑賞を通じた統合的な学びを推進。大人と子供が共に学び合う主体性を重視したアクティブ・ラーニング・プログラムを実施することで、生涯を通じて継続的にミュージアムを活用することができる「ミュージアム・リテラシー」を育むことをねらいとしている。あわせて、参加した子供や保護者、教員、とびラー等で構成される文化財を介した人と人のつながり「ミュージアム・コミュニティ」の形成を目指している。

複数の文化施設の活用を促すツール「ミュージアム・スタート・パック」とウェブサイトを中心に、ミュージアム・大学・市民が協働して子供たちの学びに関わり、プロジェクトを推進させている。本年度の子供の参加者は1,712人。2013(平成25)年の事業開始から累計12,227人の子供がミュージアム・デビューを果たしている。実施プログラムは事業実績一覧(pp.55-58)を参照。

ウェブサイト <http://museum-start.jp>(ページビュー 158,530)

主催：東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都美術館、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、東京藝術大学

共催：上野の森美術館、恩賜上野動物園、国立科学博物館、国立国会図書館国際子ども図書館、国立西洋美術館、東京国立博物館、東京文化会館(五十音順)

## とびらプロジェクトとの連動

「あいうえの」で重要な役割を果たすのが子供たちと一緒に活動する「きく力」のあるとびラー(p.43参照)である。自分に関心を持って耳を傾けてくれる人の存在が子供たちの自己肯定感を育むことにつながる。とびラーたちはプログラムの中で子供たちの伴走役として活動している。親でも先生でもない多様な大人と出会い、豊富な文化資源を共に鑑賞し、大人と子供がフラットに学びあうことで、子供たちのミュージアム体験がより充実したものになることを目指している。他方、とびラーにとっては、「あいうえの」でワークショップの場づくりに参画することが、講座の内容を具体的に理解し実践する学びの場となっている。

## Museum Start あいうえの運営チーム

都美と藝大で組織された運営チームが実務を担当した。

藝大担当者は、伊藤達矢(美術学部特任准教授、Museum Start あいうえのプロジェクト・マネージャ)、鈴木智香子(美術学部特任助手、Museum Start あいうえのプログラム・オフィサー)、長尾朋子特任助手(美術学部特任助手、Museum Start あいうえのプログラム・オフィサー、～4月)、山崎日希(藝大美術学部特任助手、Museum Start あいうえのプログラム・オフィサー、5月～)。当館のプロジェクトルームを拠点に活動した。都美担当者は、稲庭彩和子、熊谷香寿美。専門家委託として渡邊祐子(Museum Start あいうえのプログラム・オフィサー)。



Museum Start あいうえの(リーフレット)

## 「ミュージアム・スタート・パック」の特徴

「ミュージアム・スタート・パック」とは、子供たちがミュージアムを楽しく活用するためのスターター・キットである。「あいうえの」のプログラムに初めて参加した子供たち全員にプレゼントしている。連携各館を紹介する「ガイドブック(ビビハドトカダブック)」とミュージアムでの体験の記録を書き込める「冒険ノート」の2冊がバインダーにまとめられている。バインダーには「あいうえの」の秘密の呪文(館種を表す言葉の頭文字をつないだ「ビビハドトカダブ」)がホログラムをあしらってデザインされている。子供たちの意欲をより高めるため、連携各館にパックを持って出かけるとオリジナルバッジを集められる仕組みとなっている。保護者向けには「あいうえの」を紹介した小冊子を配布。



ミュージアム・スタート・パック

## ウェブサイトの機能

「あいうえの」のウェブサイトでは、特徴的なコンテンツとして連携する9館の豊富な参加型プログラムや展覧会情報を一望できるカレンダーページを作成している。情報へアクセスしやすくすることで、ミュージアムに出かけやすい環境をつくることをねらいとしている。本年度から「冒険ノート」を使ったミュージアム体験のまとめを撮影した画像を参加者が投稿できるフォームを作成。参加者が自分の記録を発信できるとともに、他の参加者の投稿を参照できる仕組みとした。また、とびラーや運営チームからのコメントをつけられる機能を追加したことも功を奏し、投稿数が飛躍的に伸びた。

## 入口としてのアクティブ・ラーニング・プログラム

「あいうえの」では多様な子供たちが参加できるよう、2つの入口を用意している。広く公平に子供たちに参加してもらうための「学校向けプログラム」とファミリーにミュージアムでの学びの機会を提供する「ファミリープログラム」である。いずれも、大人と子供の学び合いを重視したアクティブ・ラーニングを行っている。本年度実施したプログラムは以下のとおり。

### (1) あいうえの学校(学校向けプログラム)

美術館で作品と出会い対話することで、子供たちの見方・感じ方を広げるプログラム。学習指導要領に対応し、言語活動を通じて子供たちの「主体性」「生きる力」を育む。図工・美術に限らず総合学習や国語など授業のねらいにあわせて実施。都美の学芸員や藝大教員が学校教員の相談に応じ、美術館を活用した授業づくりをコーディネートしている。当日だけでなく事前授業から事後授業まで教員をサポート。事前授業に活用できる作品のアートカードが入った「鑑賞ボックス」も貸し出している。

加えて、学校プログラムの参加校の裾野を広げるため、今までに美術館を活用したことがない教員向けに特別研修会も開催した。



鑑賞ボックス

### ・スペシャル・マンデー・コース

特別展・企画展の休室日(月曜日)にゆったりとした会場で鑑賞授業を行うプログラム。伴走役のとびラーが子供たちの作品鑑賞をサポートする。学校から美術館までの往復バスを無料で用意し、美術館を活用しやすい環境を整えている。全4回開催／参加12校、参加者数702人(児童・生徒数)対象／都内幼保・小・中・高等・特別支援学校(幼稚園保育園は年長クラスから受入、特別支援学級も受入)



スペシャル・マンデー・コース(「ムンク展—共鳴する魂の叫び」)

### ・うえのウェルカムコース

上野公園のミュージアムの楽しみ方を知る・学ぶことができる学校向けプログラム。授業のねらいや目的にあわせた幅広い活動を行う。本年度より、プログラム名を「平日開館コース」から「うえのウェルカムコース」に変更した。全8回開催／参加11校、参加者数333人(児童・生徒数)対象／小・中・高等・特別支援学校(申込状況により、都外の学校も受入。特別支援学級も受入)

### ・先生のための特別研修会 ティーチャーズ・カフェ

美術館を活用した授業を今までにすることがない教員を対象に特別研修会を実施。「あいうえの」の事業紹介やそれを支える一般公募の市民であるとびラーの役割について紹介し、新しい指導要領を見据えた学校と社会との連携について考える機会とした。「奇想の系譜展 江戸絵画ミラクルワールド」も特別に夜間開室し、とびラーが伴走する鑑賞ワークショップも行った。

1回開催／参加教員数29人



ティーチャーズ・カフェ

## (2) あいうえのファミリー(ファミリー向けプログラム)

ミュージアムの楽しさや上野公園の魅力を体験できる、冒険と発見のプログラム。鑑賞・観察・造形を通して子供と大人がともに学びあう。

### ・うえの!ふしぎ発見

アートからサイエンスまでバラエティのあるテーマでコラボレーションした複数の連携館をめぐり、とびラーと一緒に豊富な文化資源を丁寧に観察・鑑賞する。

全6回開催/各回定員15組30人/参加者数201人(子供+保護者数)

8月18日(土)けんちく部 伝説の建築家編<東京文化会館×国立西洋美術館×都美>

9月29日(土)アート&アニマル部<恩賜上野動物園×都美>

11月4日(日)アート&サイエンス部<国立科学博物館×藝大×都美>

11月24日(土)けんちく部 歴史てくてく編<国立国会図書館国際こども図書館×藝大>

12月1日(土)墨部<東京国立博物館×都美>

2019年3月27日(土)コレクター部<上野の森美術館×都美>



うえの!ふしぎ発見「墨部」(上野アーティストプロジェクト2018「見る、知る、感じる——現代の書」)

### ・インクルーシブプログラム ミュージアム・トリップ

家庭等の状況により、ミュージアムを利用しにくい子供たちと、その保護者をミュージアムに招待するオーダーメイドのプログラム。対象は、児童養護施設やファミリーホーム、経済的に困難な家庭を支援している団体や外国にルーツを持ちカルチャー・ギャップなどの困難を抱える子供を支援している団体。とびラーや学芸員、大学の教員が参加者に寄り添い、初めてでも安心してミュージアムを楽しめるようプログラムを組み立てた。本年度は次の団体と連携してプログラムを実施した。NPO法人キッズドア、NPO法人多文化共生センター東京、東京養育家庭の会  
3回開催/参加者数54人(こども+保護者・引率者数)



ミュージアム・トリップ

### ・あいうえの日和

上野公園の9つのミュージアムを楽しく冒険するコツを伝授するファミリー向けプログラム。「ミュージアム・スタート・パック」のミュージアムでの活用方法を紹介し、実際に「冒険ノート」を使うワークショップも行った。  
全10回開催/参加者数581人(子供+保護者・引率者数)



あいうえの日和

### あいうえのコミュニティ

「あいうえの」参加者のミュージアムを活用した継続的な学びを支援し、「ミュージアム・リテラシー」を育みながら、ミュージアムを拠点にしたつながり「ミュージアム・コミュニティ」づくりを支える仕組みをデジタルとリアルの両方で用意している。参加者全員が「あいうえのメンバー」に登録でき、メンバーには連携館の耳寄り情報を掲載した専用ニュースレターを配信。また、メンバーだけが参加できる招待制のプログラムを開催し、ミュージアムでとびラーやメンバー同士が再会できる特別な日としている。

・あいうえの通信(ニュースレター) 全5回配信

・あいうえのスペシャル 全3回開催/のべ参加者数481人(子供+保護者数)

# 障害のある方のための 特別鑑賞会

普段は来場者が多く混雑している特別展を障害のある方が安心してゆっくり鑑賞できるように、休室日に「障害のある方のための特別鑑賞会」を開催した。本年度実施の4つの特別展で各1回、事前申込制により、全4回のべ4,030人の参加を得た。

とびらプロジェクトと連動し、とびラーの実践の場として当日の運営にのべ138人のとびラーが参加した。ほか、任期満了したアート・コミュニケータから構成される一般社団法人アート・コミュニケータ東京にも運営協力を依頼し、事前準備を経てのべ111人のアート・コミュニケータ東京会員の協力を受けた。本事業は任期満了者とのコミュニケーション回路を育み続ける機会であるとともに、その知見や経験がとびラーに共有される機会ともなっている。企画棟ホワイエ(ロビー階)で実施している、展覧会担当学芸員による展覧会解説「ワンポイント・トーク」(手話通訳付)では、モニターを併設し、トークで紹介された作品画像と併せキーワードを補助表示したり、iPadを利用し作品の細部を手元で拡大して参照してみるプログラムなど、とびラー発案による試みも引き続き行った。

[運営協力：一般社団法人アート・コミュニケータ東京]  
5月28日(月)「プーシキン美術館展——旅するフランス風景画」

8月27日(月)「没後50年 藤田嗣治展」

11月12日(月)「ムンク展—共鳴する魂の叫び」

2019年2月25日(月)「奇想の系譜展 江戸絵画ミラクルワールド」

※各日とも開催時間は10:00～16:00(受付終了時刻は15:00)、受付時間は10:00～と12:30～の2部制



「プーシキン美術館展」(2018年) 会場風景

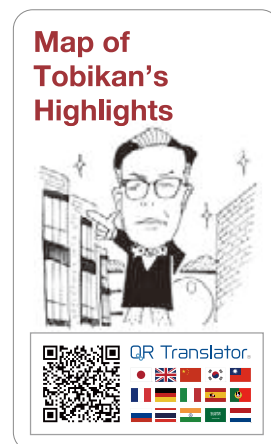
# 建築ツアー

「建築ツアー」は、建築家・前川國男の設計による当館の建物の魅力を知ってもらうツアーである。45分間程度をかけ、とびラーの案内で当館内外のみどころを散策する。ガイドを務めるとびラーそれぞれのオリジナリティが発揮された独自のツアーを展開し、前川建築の魅力を来館者と楽しんでいる。奇数月の第3土曜日14時から開催。全6回開催、参加者計157人。この定例のツアーに加え、前年度に引き続き、ライトアップされた当館を散策する「トビカン・ヤカン・カイカン・ツアー」をとびラーからの発案により開催した。夜間開室日の日没後の30分間程度のツアーである。全14回開催、参加者計188人。

また、セルフガイドとして、とびラーが作成した「トビカンみどころマップ」「上野の杜の宝石箱」東京都美術館ヤカン・ミドコロ・スポット」も引き続き配布した。多言語対応としては、前年度に引き続き、ユーザーの端末の使用言語にあわせて翻訳文を表示することができるQRTranslator<sup>®</sup>システムを採用したウェブコンテンツを運用した。システムにより生成されたQRコードを通じて「トビカンみどころマップ」の15ヶ国語での表示が可能となっている。QRコードを紹介するミニカードを館内で配布するとともに「トビカンみどころマップ」英語版にQRコードを記載した。



建築ツアー



QRコードを記載したミニカード

# 学校連携

公立美術館の大きな役割のひとつに学校連携がある。学習指導要領にも学校と美術館との連携が明記されている。当館では、2013(平成25)年度から「Museum Start あいうえの」(詳細はpp.47-49)が始まり、小・中・高校生向けのプログラムが特化した形で拡充されている。ここでは、年間を通じた学校対応や教員のための研修会の開催や受け入れ、都内教育機関を対象とした観覧料免除申請、インターンシップの受け入れ等について触れる。

2018(平成30)年度に実施したプログラムは以下の通りである。(事業実績一覧はpp.55-58参照)

## 年間を通じた学校対応と観覧料免除申請(都内教育機関対象)

年間を通し、教員からの電話による来館相談に応じている。修学旅行や総合学習の時間を活用した職場インタビューへも対応。美術館で働く学芸員という職業の意義について子供たちに伝えている。本年度は希望のあった4校19人に対応した。高校生の奉仕活動も2校3人を受け入れた。

また学校教育活動として特別展・企画展・連携展を観覧する場合には、事前申請により高校生と引率教員の観覧料を免除した(東京都内の小学・中学・高校生、並びにこれらに準ずる方と引率の教員に限る)。参加者数は児童・生徒3,529人、引率教員293人。

## 教員向け研修

学校の教員(教科不問)を対象に、美術館をよく知り、有効に活用してもらうための研修プログラムとして「ティーチャーズ・デイ」を開催している。アート・コミュニケーション事業の基本的な考え方や「Museum Start あいうえの」の取り組み、そして具体的な学校連携プログラムの事例紹介等を行っている。本年度は、企画展を活用した対話による鑑賞プログラムや、「Museum Start あいうえの」で子供たちに配布しているミュージアム・スタート・バックのツール「冒険ノート」を実際に活用するワークショップを行った。東京都歴史文化財団連携事業「学校と文化施設をつなぐティーチャーズプログラム2018」の一環。あわせて、休館中の東京都現代美術館の教育普及担当学芸員による学校連携プログラムの紹介も行った。

8月8日(水)10:00～15:00

参加者28人

また、研修協力として、全国私立小学校図画工作教員夏季研修会や、中堅教諭等資質向上研修、高等学校5年経験者研修を受け入れた。



ティーチャーズ・デイ

## ティーチャーズ・ウィーク

前年度に引き続き、小・中・高等学校・特別支援学校の教員を対象に「ティーチャーズ・ウィーク」を設定した。特別展及び企画展の開幕後最初の土曜日から次の日曜日までを教員が無料で展覧会を鑑賞できる期間とし、美術館での鑑賞授業を検討してもらった。のべ参加人数713人。

## 専門的人材の育成

美術館を支える専門的な人材育成を行っている。将来の文化芸術活動を支える人材の育成に寄与するため、主に文化施設の事業や運営に関連する分野を専攻する大学院修士課程に在籍する学生を対象に、最長で1年間、若干名をインターン生として受け入れ、現場を通して学ぶ機会を提供している。本年度は2人を受け入れた。また、依頼のあった大学の学芸員課程での見学授業も3校受け入れ、アート・コミュニケーション事業の理念や活動を直接伝える機会とした。加えて、前年度に引き続き、文化庁主催の学芸担当職員を対象とするミュージアム・エデュケーター研修への協力も行った。



インターンシップ

# 展覧会関連プログラム

当館で開催される特別展、企画展、上野アーティストプロジェクト、コレクション展をより深く理解し、より豊かに楽しんでもらえるよう、開催期間中に様々なプログラムを行った。2018(平成30)年度に実施したプログラムは以下の通り。(事業実績一覧はpp.55-58参照)

## 1 特別展関連プログラム

中学生以下の子供たちを対象に、鑑賞用ツールとして磁気式のお絵かきボード「とびらボード」の貸出を継続した。会場内で作品の絵を描くことでより丁寧な鑑賞につなげることを目的としている。また展覧会ごとに講演会やイベントレクチャーを開催した。

## 2 特別展ジュニアガイド

前年度に引き続き、展覧会のテーマや内容をわかりやすく伝え、子供たちが展覧会を楽しみ、学ぶ助けとなるためのジュニアガイドを制作した。小中学校などへの事前送付や会場配布とともに、当館のウェブサイトからのダウンロードも可能となっている。本年度は「没後50年 藤田嗣治展」で5万部、「奇想の系譜展 江戸絵画ミラクルワールド」で10万部(増刷分含む)作成。事前送付については、東京都の全公立小中学校と主要な私立学校、埼玉県、千葉県、神奈川県的主要都市の公立・私立の小中学校約5,800校にサンプル配布した。図書館等にも送付。なお、「奇想の系譜展 江戸絵画ミラクルワールド」では、台東区、文京区、荒川区の区立・都立64校の小中学校で全児童・生徒に配布した。特に「奇想の系譜展 江戸絵画ミラクルワールド」は好評のため3万部増刷した。



奇想の系譜展ジュニアガイド

## 3 とびラボ発展展覧会関連プログラム

とびラーの発案により、様々なプログラムが開催された。詳細はp.45を参照のこと。



とびラボ発プログラム マインドマップで読み解く「奇想の系譜」

## 4 企画展関連プログラム

「BENTO おべんとう展—食べる・集う・つながるデザイン」の関連プログラムとして出品作家6人とワークショップを行った(詳細はpp.22-23を参照)。また、高校生以下の子供とその保護者を対象とする「キッズデー」(詳細はp.53)を企画展で初めて開催し、保護者の観覧料も無料とした。休館日の開催であったが、レストランやショップとも連携し、全館で子供たちを迎えた。



出品作家によるプログラム

## 5 上野アーティストプロジェクト及びコレクション展関連プログラム

上野アーティストプロジェクト2018「見る、知る、感じる—現代の書」では、会場内で出品作家自身が作品について語るアーティストトークや学芸員が展覧会のみどころを紹介するギャラリートーク等を開催した。多言語対応の一環として、本年度初めて英語の逐次通訳付ギャラリートークも実施。「東京都美術館コレクション展 喜怒哀楽の書」では、プレ講演会やスペシャルトークショー等を行った。

## 6 音楽会

財団連携事業として音楽会「ART meets MUSIC」を特別展及び企画展で開催。詳細はp.66参照のこと。

# キッズデー

キッズデーとは、休室日の月曜を特別に開室する、子供のための特別な1日である。2018(平成30)年度は、全館休館日に企画展「BENTO おべんとう展一食べる・集う・つながるデザイン」にて開催し、高校3年生以下の子供とその保護者の観覧料を無料とした。

ロビー階の通路には、普段美術館にあまり来ない子供たちもマナーを守ってお互い気持ちよく楽しめるよう、展示室での過ごし方のポイントを紹介するパネルを設置した。一部営業したレストランでは弁当の持込も可能とし、ミュージアムショップも臨時営業し、子供たちがリラックスしながら展覧会を楽しめる機会とした。

会場では、展覧会ファシリテータである「フロシキヤ」が子供たちの作品鑑賞に伴走した。キッズデー特別プログラムとしては、小倉ヒラク氏の出品作品《おべんとう DAYS》の振り付けを担当したダンスユニット flep funce! と一緒に踊るダンスワークショップをギャラリー入口近くのホワイエで行った。また、とびらプロジェクトを任期満了したアート・コミュニケータが企画した「ベビーと一緒にミュージアム」も実施。ベビーカーに乗る年齢(月齢)の子供とその保護者とともに展覧会を楽しんだ。

開催日：8月20日(月)10：00～16：00

特別プログラム1：うたっておどろう！おべんとう  
全3回実施、参加者計182人

特別プログラム2：ベビーと一緒にミュージアム  
全2回実施、参加者計9組19人

総来場者1,029人(上記特別プログラム参加者も含む)



当日の様子



特別プログラム1：うたっておどろう！おべんとう 撮影：中島佑輔



特別プログラム2：ベビーと一緒にミュージアム 撮影：中島佑輔

**BENTO おべんとう展**  
2018.7.21土-10.8月  
東京・上野公園  
ギャラリーA・B・C

「キッズデー」を行います！  
休館日の月曜日に、こどものための特別な日

待ちに待った夏休み。みんなはどこに遊びに行きますか？  
東京都美術館では、休館日の月曜日に、「キッズデー」を行います！

夏休みの特別な1日  
**キッズデー** 2018.8.20(月)  
9:30～16:00(入室は15:30まで)  
東京都美術館(上野公園)ギャラリーA・B・C

**BENTO おべんとう展**  
一食べる・集う・つながるデザイン

「BENTO おべんとう展」は、お弁当が人と人をつなぐことができることに注目した展覧会です。例えば江戸時代の人々は遊び心にあふれたユニークなお弁当箱を考え、お花見などして、クリエイティブに人と人のゆるやかなかかわりの場を作っていました。食の情報は、ただ味にこだわることだけでなく、多様な人々をつなぐ時間でもあります。展示室には現代のアーティストたちが考えた、お弁当にまつわる作品が数多く並び、見どころが満載です。大人もファミリーも楽しい、見る・聞く・触れる展覧会です。キッズデーはこどもがリラックスして美術館を楽しめる特別な日で、参加型プログラムも随時行います。さあ東京都美術館のキッズデーに行こう！

対象：高校生以下(小学生以下は保護者同伴の入室をお願いいたします)。  
観覧料：無料  
※小学生以下は入館料がかかります。大人(小学生以上)は入館料がかかります。  
※特別展(夜間)は観覧料がかかります。

東京都美術館ウェブサイト <http://bentotobikan.jp>  
公式ツイッター @bentotobikan  
お問い合わせ 東京都美術館 キッズデー担当 電話 03-3823-4921(東京都代表)

東京都美術館  
TOYO MIHO MUSEUM

キッズデーチラシ デザイン：栗谷川舞(STUBBIE DESIGN)

# 事業の発信・成果の発表・その他

## とびらプロジェクトの活動をまとめた書籍の出版

とびらプロジェクトの活動アーカイブを基に、2018(平成30)年10月に株式会社青幻舎より『美術館と大学と市民がつくるソーシャルデザインプロジェクト』が出版された。とびラーをはじめとする多くの関係者インタビューや事例紹介、稲庭、伊藤の論文を掲載し、6年間の具体的な活動と理念・意義を多層的にまとめた。また、11月に代官山蔦屋書店主催で行われた出版記念イベントには、日比野氏、伊藤、稲庭が登壇した。



『美術館と大学と市民がつくる  
ソーシャルデザインプロジェクト』

## モナシュ大学及びイミグレーション・ミュージアム(オーストラリア、メルボルン)との交流

文化多様性や社会的包摂の拠点としてのミュージアムのあり方を検討するため、前年度に続きモナシュ大学及びイミグレーション・ミュージアム(オーストラリア、メルボルン)との交流事業を行った。4月に当館で意見交換会を行い、モナシュ大学等が主催する国際シンポジウム「ダイバーシティを奨励する文化実践〜イミグレーション・ミュージアム・メルボルンとの対話〜」に伊藤が登壇。9月には、モナシュ大学及びイミグレーション・ミュージアム主催の国際シンポジウム「Promoting Diversity Through Museum Practice: Melbourne and Tokyo」への招聘を受け現地に赴いた。シンポジウムには日比野氏と稲庭が登壇し、稲庭がアート・コミュニケーション事業に関する発表を行った。また現地の取組の視察も行い今後の活動の参考とした。



シンポジウム風景

## 日本博物館協会全国博物館大会 分科会の実施

日本博物館協会第66回全国博物館大会において、講堂を会場に分科会4「ミュージアム・コミュニケーションー『多様な関わりを創る』市民との協働」を開催。藤田千織氏(東京国立博物館教育普及室長)や白木栄世氏(森美術館アソシエイト・ラーニング・キュレーター)、任期満了後に活動のための法人を立ち上げた2名のアート・コミュニケータをゲストに、ミュージアムが公的責務として社会課題に対応するために市民と協働する可能性について、多様な経験値を持つ市民による活動の現状と今後の課題を共有した。

11月29日(木)参加者数89人

講師/藤田千織、白木栄世、太田代輔(合同会社ダイアリー・クリエイションズ代表)、近藤乃梨子(一般社団法人アプシエイトアプローチ代表理事)、司会/山崎真理子、コーディネータ/稲庭



会場風景

## 上野「文化の杜」地域SNSアプリ「PIAZZA」

上野「文化の杜」が上野公園の文化施設を通じてつながりを育むコミュニティプラットフォーム形成を目指し運用を始めた地域SNSアプリ「PIAZZA」に参画(p.70参照)。とびラーや任期満了したアート・コミュニケータ、「あいうえの」参加者等に積極的に広報した。デジタルでの新たな回路が、文化縁でつながるミュージアム・コミュニティをさらに活性化することをねらいとしている。2019(平成31)年2月から試験運用開始。

## 公募団体主催プログラムへの事業協力

前年度に引き続き、当館のミッションに合致するプログラムを行っている公募団体のうち、協力依頼のあった団体へ事業協力を行った。詳細は事業実績(pp.55-58)参照。

# アート・コミュニケーション事業2018(平成30)年度 実績

2018年度アート・コミュニケーション事業のプログラム参加のべ総人数：38,749人

とびらプロジェクト(P.42～P.46) プログラム参加のべ数7,799人 / アート・コミュニケータ登録者数147人

プログラム名	開催期間・開催日	回数	参加者数			参加者計	
			とびら	開扉 とびら	一般 参加者等		
基礎講座	4月14日、28日、5月12日、26日、6月9日、23日 いずれも土曜日	6回	371	0	49	420	
鑑賞実践講座	6月25日(月)、7月7日(土)、16日(月)、8月27日(月)、10月22日(月)、29日(月)、2019年2月10日(日)、11日(月)、18日(日)、番外編10月20日(土)、21日(日)	11回	530	0	66	596	
アクセス実践講座	7月1日、15日、9月30日、10月14日(2回)、11月11日、12月2日、2019年1月27日 いずれも日曜日	8回	375	0	49	424	
建築実践講座	6月30日(土)、7月8日(日)、8月25日(土)、10月6日(土)、13日(土)、11月10日(土)、2019年1月12日(土)、2月23日(土)	8回	332	7	0	339	
建築実践講座ワークショップ んまつーボス ダンスワークショップ「だだだだ・だ」	2019年2月5日(火)	1回	20	0	4	24	
特別鑑賞会に関する準備講座	5月26日(土)	1回	43	0	0	43	
基礎講座・実践講座等 映像視聴	4月～2019年3月	14回	15	0	0	15	
8期とびら 2次面接	2019年3月8日(金)、9日(土)、10日(日)	3日間	0	0	128	128	
とびらステーション	12月22日(土)	1回	75	0	0	75	
開扉式	2019年3月30日(土)	1回	95	7	0	102	
とびらプロジェクト・オーブンレクチャー	vol.9 食べる・集う・つながるデザイナーおべんとう展から考えるコミュニケーション	1回	45	0	153	198	
とびらプロジェクト・フォーラム	第一部：2020年のその先へ。ミュージアムが挑むダイバーシティ～札幌・東京・岐阜をつなぐアート・コミュニティ 第二部：オープンスペースカフェ	2019年2月3日(日)	28	0	211	239	
都美連携プログラム	スタッフ鑑賞研修会(プーシキン美術館展)	4月26日(木)	1回	45	19	0	64
	スタッフ鑑賞研修会(藤田嗣治展)	8月2日(木)	1回	41	17	0	58
	スタッフ鑑賞研修会(ムンク展)	10月31日(水)	1回	48	0	0	48
	スタッフ鑑賞研修会(【奇想の系譜展 江戸絵画ミラクルワールド】)	2019年2月14日(木)	1回	38	18	0	56
	スタッフ鑑賞研修会(おべんとう展)	7月26日(木)	1回	9	0	0	9
	スタッフ鑑賞研修会(現代の書展)	12月6日(木)	1回	13	0	0	13
	特別展事前勉強会(藤田嗣治展)	6月16日(土)	1回	58	13	0	71
	特別展事前勉強会(ムンク展)	8月26日(日)	1回	38	20	0	58
	特別展事前勉強会(奇想の系譜展 江戸絵画ミラクルワールド)	2019年1月6日(日)	1回	23	23	0	46
	特別展事前勉強会(クリムト展)	2019年3月24日(日)	2回	45	23	0	68
	連携展事前勉強会(現代の書展)	9月23日(日)	1回	22	0	0	22
	アクセシビリティ向上のためのトレーニングワークショップ	6月11日(月)	1回	10	0	0	10
	消防訓練	9月18日(火)、2019年2月18日(月)	2回	4	0	0	4
	野外彫刻洗浄	9月18日(火)	1回	9	0	0	9
	藝大連携プログラム(講義など)	藝大講義「色彩学」	9月27日(木)～29日(土)	3日間	26	0	0
藝大生インタビュー		11月～2019年1月	10回	32	0	12	44
さくらアート幼稚園卒展鑑賞(園児48人、引率者6人)		2019年1月30日(水)	1回	9	0	54	63
とびらアンバサダー	7月～10月	19回	26	0	64	90	
とびラボ	とびラボ ミーティング	4月～2019年3月	263回	1,882	0	1,882	
とびラボ発プログラム(プーシキン美術館展)	マインドマップで味わうアート	6月17日(日)	1回	5	0	4	9
とびラボ発プログラム(プーシキン美術館展)	ヨリミチビジュツカン プーシキン展編	7月6日(金)	1回	14	0	11	25
とびラボ発プログラム(藤田嗣治展)	あなたのフジタをフレーミング	9月30日(日)	1回	17	0	10	27
とびラボ発プログラム(奇想の系譜展)	マインドマップで読み解く「奇想の系譜」	2019年3月29日(金)	1回	8	0	7	15
とびラボ発プログラム(ムンク展)	ムンクの絵と音ワークショップ	2019年1月11日(金)、18日(金)	2回	22	0	18	40
とびラボ発プログラム(現代の書展)	赤ちゃんとお出かけびじゅつかん	11月28日(水)	1回	14	0	16	30
とびラボ発プログラム(現代の書展)	はなしてみま書!	12月16日(日)	1回	14	0	32	46
とびラボ発プログラム(現代の書展)	オリジナル缶バッジを作ろう!	12月16日(日)	1回	21	0	160	181
とびラボ発プログラム(女子 女子美さんば 美術大学 大学院・大学・短期大学部 学生選抜作品展)	TURNさんば	2019年3月3日(日)	1回	9	0	9	18
とびラボ発プログラム(TURN)	TURNさんば	8月18日(金)、19日(土)	2回	19	0	24	43
とびラボ発プログラム(藝祭)	みんなの藝祭スケッチ	9月7日(金)～9月9日(日)	3回	12	0	60	72
とびラボ発プログラム(藝祭)	藝祭さんば	9月8日(土)	1回	10	0	22	32
とびラボ発プログラム(卒展さんば 藝大卒業・終了展)	卒展さんば	2019年1月31日(水)、2月2日(日)	2回	29	0	53	82

プログラム名	開催期間・開催日	回数	参加者数			参加者計	
			とびラー	開扉とびラー	一般参加者等		
とびラボ発プログラム (藝大卒業・終了展)	なりきりアーティスト	2019年2月2日(土)	1回	24	0	13	37
とびラボ発プログラム (藝大卒業・終了展)	藝大建築ツアー	2019年1月31日(木)	1回	14	0	23	37
これからゼミ	説明会	6月2日(土)	1回	21	0	0	21
	これからゼミ ミーティング	4月～2019年3月	20回	162	13	2	177
これからゼミ発プログラム	たんけん!美術館(里親家族向けプログラム)	8月26日(日)	1回	13	0	21	34
	藝祭「おく?」ワークショップ編	9月7日(金)～9日(日)	3回	15	0	31	46
	同窓会ツアー	9月12日(水)	1回	7	0	6	13
TURN連携プログラム	TURNサポーター	8月17日(金)～19日(日)	3日間	28	2	0	30
「BENTO おべんとう展」ファシリテータ関連プログラム	一般公募者及び、とびラー対象「BENTO おべんとう展」ファシリテータ研修(事前)	6月2日、9日、16日 いずれも土曜日 7月14日(土)、15日(日)	6回	77	20	51	148
	一般公募者及び、とびラー対象「BENTO おべんとう展」ファシリテータ研修(会場研修会)	7月19日(木)	2回	44	11	34	89
	「BENTO おべんとう展」展覧会ファシリテータの活動	6月16日(土)～10月8日(月)	92回	425	174	527	1126
	《おべんとうDAYS》ダンスワークショップのためのレッスン	7月29日(日)	1回	7	3	0	10
合計				5,366	370	2,063	7,799

Museum Start あいうえの(p.48-p.49) プログラム参加のべ人数3,455人

プログラム名	連携団体・学校	開催日	回数	参加者数			参加者計			
				とびラー	子ども	保護者・引率者等				
あいうえのファミリー (ファミリー向けプログラム)	うえの!ふしぎ発見 けんちく部	港区立御田小学校(3年生)	8月18日(土)	1回	17	15	16	48		
	うえの!ふしぎ発見 アート&アニマル部		9月29日(土)	1回	19	16	14	49		
	うえの!ふしぎ発見 アート&サイエンス部		11月4日(日)	1回	18	22	23	63		
	うえの!ふしぎ発見 けんちく部		11月24日(土)	1回	16	18	17	51		
	うえの!ふしぎ発見 墨部		12月1日(土)	1回	16	16	21	53		
	うえの!ふしぎ発見 コレクター部		2019年3月27日(水)	1回	15	14	15	44		
あいうえの学校 (学校向けプログラム) スペシャルマンデーコース のべ12校 参加生徒・児童数702名	あいうえの日和		7月24日(火)、25日(水)、 11月17日(土)、2019年3 月16日(土)、17日(日)	10回	23	289	295	607		
	ミュージアム・トリップ(インクルーシブ・プログラム)	NPO法人キッズドア	8月2日(木)	1回	15	11	6	32		
		NPO法人多文化共生センター東京	8月25日(土)	1回	19	14	9	42		
		東京養育家庭の会	10月7日(日)	1回	8	7	9	24		
	【BENTO おべんとう展—食べる・集う・つながるデザイン】	港区立御田小学校(3年生)		9月10日(月)	1回	24	59	5	88	
		台東区立谷中保育園(年長)		9月10日(月)	1回	8	21	3	32	
		足立区立足立入谷小学校(5年生)		9月10日(月)	1回	23	18	10	51	
		江東区立第三大島小学校(6年生)		9月25日(火)	1回	24	90	4	118	
		台東区立根岸幼稚園(年長)		9月25日(火)	1回	9	22	6	37	
		豊島区立巣鴨小学校(3年生)		9月25日(火)	1回	30	66	8	104	
【ムンク展—共鳴する魂の叫び】		目黒区立月光原小学校(4年生)		11月19日(月)	1回	22	45	4	71	
		都立白鷺特別支援学校(高校3年生)		11月19日(月)	1回	8	12	6	26	
		港区立港南小学校(6年生)		11月19日(月)	1回	38	187	11	236	
		文京区立柳町小学校(6年生)		12月3日(月)	1回	17	63	28	108	
	台東区立金曾木小学校(4年生)		12月3日(月)	1回	20	70	9	99		
	文京区立文林中学校(1～3年生)		12月3日(月)	1回	25	49	26	100		
あいうえの学校 (学校向けプログラム) うえのウェルカムコース のべ11校 参加生徒・児童数333名	【BENTO おべんとう展—食べる・集う・つながるデザイン】	八王子市立松が谷中学校(美術部)	8月1日(水)	1回		27	2	29		
		都立浅草高等学校、都立足立西高等学校、都立荒川工業高等学校、私立岩倉高等学校(1～3年生)	8月22日(水)	1回		32	7	39		
	葛飾区立葛飾小学校(3～6年生)		8月28日(火)	1回		31	2	33		
	吉見町立吉見中学校(美術部)		8月29日(水)	1回	5	29	2	36		
	荒川区立第二暮里小学校(5～6年生)		9月14日(金)	1回		57	4	61		
	【東京藝術大学 卒業・修了制作展】	台東区立金曾木小学校(3年生)		2019年1月31日(木)	1回	10	73	5	88	
		【奇想の系譜展 江戸絵画ミラクルワールド】	台東区立金竜小学校(特別支援学級1～6年生)		2019年2月25日(月)	1回	13	18	11	42
			近畿大学附属豊岡中学校(2年生)		2019年3月8日(金)	1回		66	5	71
	あいうえのメンバー向けプログラム	あいうえのスペシャル※		8月20日(月)、12月15日(土)、2019年2月24日(日)	3回	54	220	265	539	
		ティーチャーズカフェ		2019年3月25日(月)	1回	17	29	1	47	
学び合いカフェ	各プログラムのとびラー向け準備日		7月～2019年3月	29回	379	0		379		
	あいうえのアンバサダー		7月～12月	2回	2	6		8		
合計				894	1,712	849	3,455			

※「あいうえのスペシャル」のとびラーの人数には、開扉とびラー 10人を含む

障害のある方の特別鑑賞会(p.50) プログラム参加のべ人数4,331人

プログラム名	開催日	回数	参加者数			参加者計	
			とびラー	開扉とびラー	一般参加者等		
障害のある方のための特別鑑賞会	プーシキン美術館展	5月28日(月)	1回	36	25	1,117	1,178
	没後50年 藤田嗣治展	8月27日(月)	1回	34	24	792	850
	ムンク展—共鳴する魂の叫び	11月12日(月)	1回	35	31	1,067	1,133
	奇想の系譜展 江戸絵画ミラクルワールド	2019年2月25日(月)	1回	33	31	1,054	1,118
特別鑑賞会のための会場下見	(プーシキン美術館展、ムンク展)	5月9日(水)、19日(土)、11月3日(土)、6日(火)	4回	13	9	0	22
特別鑑賞会のための準備日	(プーシキン美術館展、藤田嗣治展、ムンク展)	4月26日(木)、7月26日(木)、10月6日(土)	3回	30	0	0	30
合計				181	120	4,030	4,331

建築ツアー(p.50) プログラム参加のべ人数775人

プログラム名	開催日	回数	参加者数			参加者計	
			とびラー	開扉とびラー	一般参加者等		
建築ツアー	5月19日、7月21日、9月15日、11月17日、2019年1月19日、3月16日 いずれも土曜日	6回	101	0	155	256	
トピカン・ヤカン・カイカン・ツアー	5月18日、25日、6月8日、29日、7月6日、27日、8月17日、24日、9月28日、10月5日、11月2日、12月7日、2019年1月11日、18日、3月1日、15日 いずれも金曜日	16回	129	0	390	519	
合計				230	0	545	775

学校連携(p.51) プログラム参加のべ人数4,938人/インターン受入人数2人

プログラム名	開催期間・開催日	回数	参加者数		参加者計	
			児童・生徒	教員等		
学校来館対応(職業インタビュー)	東京都立葛飾総合高校	4月13日(金)	1回	3	0	3
	仙台市立袋原中学校	4月24日(火)	1回	2	0	2
	東京都立葛飾総合高校	8月24日(金)	1回	2	0	2
	長野県松本美須ヶ丘高校	10月19日(金)	1回	12	0	12
学校来館対応(「人間と社会」奉仕活動)	東京都立上野高等学校	8月3日(金)～20日(月)	2回	4	2	6
	東京都立西高等学校	8月3日(金)、19日(日)、20日(月)	3回	3	1	4
観覧料免除申請(都内教育機関)	プーシキン美術館展	4月14日(土)～7月8日(日)	21件	633	61	694
	BENTO おべんとう展	7月21日(土)～10月8日(月)	23件	590	76	666
	没後50年 藤田嗣治展	7月31日(火)～10月8日(月)	4件	31	7	38
	ムンク展—共鳴する魂の叫び	10月27日(土)～2019年1月20日(日)	40件	1,804	123	1,927
	現代の書展	11月18日(日)～2019年1月6日(日)	5件	314	10	324
教員向け研修	奇想の系譜展 江戸絵画ミラクルワールド	2019年2月9日(土)～2019年4月7日(日)	9件	157	16	173
	ティーチャーズ・デイ	8月8日(水)	1回	0	33	33
教員向け研修(ティーチャーズ・ウィーク)	プーシキン美術館展—旅するフランス風景画	4月14日(土)、15日(日)、17日(火)、19日(木)～22日(日)	7日間	0	60	60
	BENTO おべんとう展—食べる・集う・つながるデザイン	7月21日(土)、22日(日)、24日(火)～29日(日)	8日間	0	75	75
	没後50年 藤田嗣治展	8月4日(土)、5日(日)、7日(火)、8日(水)、9日(木)、10日(金)、11日(土)、12日(日)	8日間	0	234	234
	ムンク展—共鳴する魂の叫び	10月27日(土)、28日(日)、30日(火)～11月4日(日)	8日間	0	209	209
教員研修協力	奇想の系譜展 江戸絵画ミラクルワールド	2月9日(土)～11日(月)、13日(水)～17日(日)	8日間	0	135	135
	中堅教諭等資質向上研修(台東区立浅草小学校)	8月8日(水)、19日(日)、20日(月)	1名、1日間	0	3	3
	高等学校5年経験者研修(埼玉県立伊奈学園総合高等学校)	8月20日(月)	1名、1日間	0	1	1
専門的人材の育成	全国私立小学校図画工作教員夏季研修受入	8月22日(水)	1回	0	44	44
	東京農工大学	8月9日(木)	1回	20	1	21
	首都大学東京	10月6日(土)	1回	24	3	27
	目白大学	2019年1月13日(日)	1回	28	2	30
合計				3,627	1,096	4,723

展覧会関連プログラム(p.52) プログラム参加のべ人数16,309人

プログラム名	開催期間・開催日	回数	参加者計
とびらボード	【ブリュッセル展 画家一族150年の系譜】	4月1日(日)	1日間 40
	【ブーシキン美術館展—旅するフランス風景画】	4月14日(土)～7月8日(日)	75日間 1,490
	【没後50年 藤田嗣治展】	7月31日(火)～10月8日(月)	63日間 1,151
	【ムンク展—共鳴する魂の叫び】	10月24日(水)～2019年1月8日(火)	81日間 4,599
	【奇想の系譜展 江戸絵画ミラクルワールド】	2019年2月9日(土)～3月31日(日)	44日間 1,930
【ブーシキン美術館展—旅するフランス風景画】	記念講演会	4月14日、5月12日、6月2日 いずれも土曜日	3回 634
	イブニングレクチャー	5月11日(金)、25日(金)	2回 272
【没後50年 藤田嗣治展】	記念講演会	8月4日、8月18日、9月8日 いずれも土曜日	3回 675
	イブニングレクチャー	8月10日、31日 いずれも土曜日	2回 450
【ムンク展—共鳴する魂の叫び】	記念講演会	10月27日(土)、12月2日(日)	2回 402
	イブニングレクチャー	11月2日、12月7日、2019年1月11日 いずれも金曜日	3回 610
【奇想の系譜展 江戸絵画ミラクルワールド】	講演会	2019年2月27日(水)	1回 225
	イブニング・レクチャー	2019年2月15日、3月15日 いずれも金曜日	2回 450
	映画上映会	2019年3月9日(土)、15日(金)	2回 428
【BENTO おべんとう展—食べる・集う・つながるデザイン】	chioben-山本千織さんのワークショップ「詰め考」	7月27日(金)	1回 26
	ダンスワークショップ 小倉ヒラクさん × flep funcel「歌って踊るおべんとう！」①(9:45～)、②(11:00～)	7月29日(日)	2回 41
	阿部了さん・阿部直美さんとクラフト・エヴィンク商會によるトークセッション「はじまりはモノクロだった」	8月10日(金)	1回 33
	「BENTO おべんとう展」×奈良県 マイ箸づくりワークショップ	8月12日(日)	4回 63
	小山田徹さんによるトークセッション「お父ちゃんと娘(9歳)のおしゃべりセッション」	9月16日(日)	1回 29
	北澤潤さんによる「おすそわけピクニック」	9月9日、23日、10月7日 いずれも日曜日	3回 241
	北澤潤さんによる「おすそわけ横丁ガイドツアー&座談会」	9月7日、21日、10月5日 いずれも金曜日	3回 107
	森内康博さんと小野康男教授によるトーク・セッション	9月24日(月)	1回 23
上野アーティストプロジェクト2018「見る、知る、感じる—現代の書」	出品作家によるアーティストトーク	12月1日、8日 いずれも土曜日	2回 527
	担当学芸員によるギャラリートーク	12月23日(日)	1回 122
	担当学芸員によるギャラリートーク(英語通訳付)	12月30日(日)	1回 44
「東京都美術館展コレクション展 喜怒哀楽の書」	プレ講演会	11月23日(金)	1回 60
	スペシャルトーク	12月28日(金)	1回 43
音楽会「ART meets MUSIC」	第1回 【BENTO おべんとう展—食べる・集う・つながるデザイン】	8月2日(木)	1回 319
	第2回 【没後50年 藤田嗣治展】	9月13日(木)	1回 439
	第3回 【ムンク展—共鳴する魂の叫び】	11月26日(月)	1回 433
	第4回 【奇想の系譜展 江戸絵画ミラクルワールド】	2019年2月28日(木)	1回 403
合計			16,309

※参加者に展覧会ファシリテーター等も含む

キッズデー(p.53) プログラム参加のべ人数1,072人 ※プログラムごとの参加者数はpp.22-23

プログラム名	開催日	回数	参加者数			参加者計
			とびら	開扉とびら	一般参加者等	
キッズデー	8月20日(月)	1回	19	15	1,029	1,063
キッズデー準備日	8月19日(日)	1回	7	2	0	9
合計			26	17	1,029	1,072

事業の発信・成果の発表(p.54) プログラム参加のべ人数285人

プログラム名	開催日	回数	参加者数			参加者計
			とびら	開扉とびら	一般参加者等	
日本博物館協会第66回全国博物館大会	11月29日(木)	1回	12	16	61	89
公衆団体への事業協力	日本彫刻会視覚障害児童向け鑑賞教室(子供124人、引率51人)	4月25日(水)、26日(木)(2回)、27日(金)、5月1日(火)	5回	0	0	175
	国画会彫刻部視覚障害特別学校ワークショップ	11月3日(土)	1回	7	0	14
合計			19	16	250	285

## ユニークベニュー

歴史的建造物や文化施設等で、会議やイベント、レセプション等を開催することで、特別感を演出できる会場を、ユニークベニューという。

日本のモダニズム建築の巨匠・前川國男により設計された東京都美術館を、プライベートなイベントの会場として利用することができる。東京都美術館では、一定の条件のもとでユニークベニューを受け入れており、2018(平成30)年度の実績は以下のとおり。

実施回数／4回

### 主な利用内容

婚活パーティー、ビジネスショーケースなど

### 主な利用場所

エスプラナード、レストラン、佐藤慶太郎記念 アートラウンジ、ロビーエントランス、中庭、講堂など



## 財団内連携事業

### 展覧会関連音楽会 ART meets MUSIC

東京都美術館で開催する展覧会を主題としたコンサートを、東京文化会館で東京都交響楽団の演奏により実施することで、来館者サービスの提供を行った。実績は以下のとおり。

公演日程／11：00開演(12：00終演)

第1回(おべんとう展)

2018(平成30)年8月2日(木)

第2回(藤田嗣治展)

2018(平成30)年9月13日(木)

第3回(ムンク展)

2018(平成30)年11月26日(月)

第4回(奇想の系譜展)

2019(平成31)年2月28日(木)

公演場所／東京文化会館 小ホール

入場料／入場無料 ※ただし入場整理券が必要  
(入場整理券は展覧会チケット(半券可)の提示で配布)

### 入場者数

第1回／319人

第2回／439人

第3回／433人

第4回／403人



会場風景 撮影：堀田力丸

# 平成30年度 東京都美術館年報

Tokyo Metropolitan Art Museum  
Annual Report 2018

発行日／令和元年9月

執筆・編集／東京都美術館

印刷／株式会社ルナテック

発行／公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都美術館

〒110-0007

東京都台東区上野公園8-36

TEL 03-3823-6921(代表)

FAX 03-3823-6920

© Tokyo Metropolitan Art Museum, 2019

